

PAT-NO: JP360161020A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 60161020 A
TITLE: SCREW CUTTER
PUBN-DATE: August 22, 1985

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
NAGAI, SHIGERU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
NAGAI SHIGERU	N/A

APPL-NO: JP59017936

APPL-DATE: February 1, 1984

INT-CL (IPC): B23D029/02

US-CL-CURRENT: 30/182, 30/250

ABSTRACT:

PURPOSE: To simply cut a long screw bolt, etc., to a prescribed length without fail by providing a ratchet mechanism and a reaction handle on both ends of a cutter body and moving a cutting edge forward and backward with use of said ratchet mechanism.

CONSTITUTION: Upon cutting a long screw bolt, etc., they are set in a notched groove 3 formed in the recessed inner surface of a cutter body 1, and gripping a reaction handle 9, the nut 6 of a ratchet 5 is rotated. Thereupon, a moving shaft 10 is advanced via a shaft 16 and a screw

shaft 15 and a cutting edge 2 is brought into contact with the long screw bolt, etc. Then, a handle 8 located below the ratchet 5 is moved forward and backward, and thereby the cutting edge 2 is forced to eat, for successive cutting, in the long screw bolt, etc. Hereby, the long screw bolt, etc., can be simply cut to a prescribed length without fail.

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭60-161020

⑬ Int. Cl.
B 23 D 29/02

識別記号 庁内整理番号
C-8207-3C

⑭ 公開 昭和60年(1985)8月22日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全 2 頁)

⑮ 発明の名称 ネジカッター

⑯ 特 願 昭59-17936
⑰ 出 願 昭59(1984)2月1日

⑱ 発明者 長井 繁 太宰府市大字太宰府4222の93
⑲ 出願人 長井 繁 太宰府市大字太宰府4222の93

明細書

1. 発明の名称

ネジカッター

2. 特許請求の範囲

1. 本体(1)にラチエット機構(5)と反カハンドル(9)を持ち、切削歯(2)とネジシャフト(15)と移動軸(10)とからなるネジカッター。

2. 本体(1)に切込溝(3)と(4)があり、(3)はネジボルトが半埋程度は入り込むよう、(4)は切削歯(2)が三分の一程度は入り込むものである。

3. 移動軸(10)はネジシャフト(15)と止メナジ(13)で連結されたもので、移動軸(10)は回転止め(11)を持つ。

4. 反カハンドル(9)には手で握るのに、握りやすく凹凸されたもので、長ネジボルトが反カハンドル(9)に緊着するように切り込み溝を入れたものである。

5. 回転ナット(6)を持つもの。

3. 発明の詳細な説明

この発明は長ネジボルト等を切断するのに関するものである。

従来皆工事等で支持金物等を取りつけに当たり長ネジボルト等を所定の長さに切断するのに、今迄は金切り刀や、電気ダスククライマー、高速カッター等を切断していくが、高所や狭い所では作業上非常に困難を極め、又危険な所(例-特に船火修理等)では、おさらであった。

本発明は、従来、作業に伴つた上記のような欠点から解放され、未熟練者でも簡単な操作により、忙に正しい規格の方法が短時間のうちに素早く、その場で出来るものである。

それは本体(1)に、反カハンドル(9)、ラチエット機構(5)により、切削歯(2)、ネジシャフト(15)、移動軸(10)を作用させ、長ネジボルトを切断するようになつてある。

図面で説明すると、(第一図、斜視図)切込溝(3)に長ネジボルトを入れ、反カハンドル(9)を左手で握り、ラチエット(5)の右(6)のナットを右に

回すと、シャフト(16)を伝わって、ネジシャフト(15)でモーテル軸(10)を左方に押しつけ(第二図)。切断歯(2)が前記(3)にセットした長ネジボルトに接触し、しがら模にナット(5)の下方(8)を右手で前後に動かすと(第三図)。切断歯(2)が長ネジボルトに食い込み、長ネジボルトの紡半径程に達したら、センド・カッピングツリヒカツ(12)の切れ面はほとんど「なめらかでアスリ」等をかけずにナットがスムーズには入り、切断歯で手の中に残った長ネジボルトは、高所での作業では、下方に落下する危険もない。又実際現場作業のときは天井面のコンクリートにあらかじめ埋め込まれたインサート(ぬきぬじ)に定尺(1mもの)の長ネジボルトをねじ込み、配管に必要な長さに切断すればある。この時、排水工事は水が流れなかに特にコウハイ(100, 140等)を付けなければならず、長ネジボルトの切断寸法が一本一本ちがうので、未だ同一寸法に切断事が不可能なので、本発明のネジカッターを使用すると、1本1本確実に高所で長ネジボルトを取り付けたまま寸法を取り切り切断でき、電気を使用せず手動で切れこしかも切り口が比較的なのもいかないので、パイプ支持具のナットなどがそのまま

切断面の返りを取り去るには入るので作業が安全にねば
やくしかも手動で出来るので作業効率も今までより数段の
進歩である。

4. 図面の簡単な説明

第一図はこの発明の斜視図である。

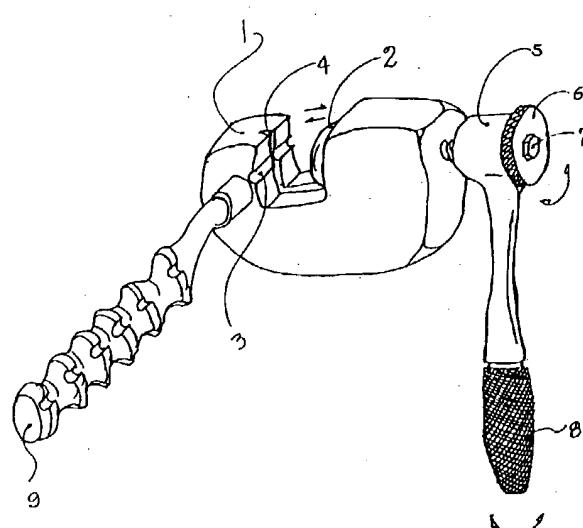
第二図はこの発明の1/4部分の(2)が(8)を
レ2(16)の分解、組立図である。

第三図はこの発明の(2)モレ(10)ヒ(15)との
部分拡大図である。

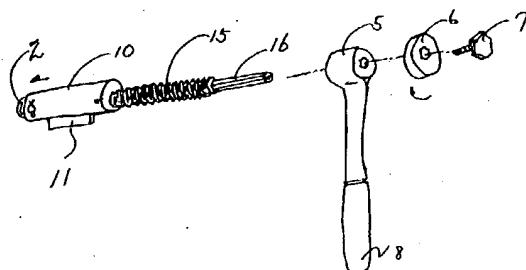
各部分の番号明細

(1) 本体、(2) 切断歯(丸型等)、(3) 切り込み
溝、(4) 切込み溝、(5) ラチェット機構、(6) 回転
六角、(7) ボルト、(8) ラセットの握り部分、
(9) 反力ハンドル、(10) 移動軸、(11) 回転止め、
(12)、(13) 止めかじ、(14) ピン、(15) ネジシャフト、
(16) 角シャフト。

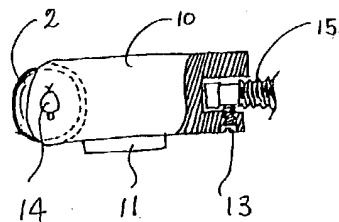
特許出願人 長井繁



第一図



第二図



第三図